

わくわくモーモースクールが開催される

神奈川県酪農教育ファーム推進委員会では、年に1回、県内の小学校で「わくわくモーモースクール」を開催しています。今年度は12月16日に川崎市立幸町小学校で開催され、乳牛とのふれあい体験を通じて、動物への関心を高め命の尊さを伝えると共に、酪農に対する理解を深めました。

当日は校内に親牛2頭、子牛2頭を搬入し、県内酪農家（13名）のほか、乳業メーカー、関係機関職員が分担して、全校児童667名を対象に搾乳体験、子牛とのふれあい体験、バター作り体験、牧場の仕事や牛の体の秘密などの授業を行いました。

搾乳体験は高学年、子牛とのふれあい体験は低学年の児童を対象に行われ、生きた牛の暖かさを実際を感じていました。バター作り体験は、新型コロナウイルス感染症対策のため、VTRを見ながら各教室で行いました。「牧場の仕事について」は、酪農家が実際の農場で使用している道具等を紹介しながら授業を行ったところ、多くの児童が道具を手にとって熱心に観察していました。

「牛の体の秘密について」では、牛の一生や牛乳が生産されるまでの様子などについて当所職員が授業を行いました。児童からは、「雄の牛はどうなるの?」「病気の牛は早くお肉にされてしまうの?」など様々な質問が寄せられ、児童の関心の高さが感じられました。また、授業の中で神奈川県産生乳100%の製品が紹介され、翌週の給食にて認証商品のひとつである牛乳が提供されました。

参加した酪農家や関係者には、児童と同じ牛乳を使ったメニューの給食が提供され、昨今の厳しい情勢のなかですが、児童たちの牛や酪農への関心の高さや反応を見て、酪農家にとっても励みになるイベントとなったものと思われまます。畜産技術センターでは、今後も牛に関する知識や酪農への理解を深める活動の支援を続けて行きます。



当所職員が担当した「牛の体の秘密」の授業



酪農家が担当した「牧場の仕事」の授業



子牛とのふれあい体験の様子



メインのシチューに牛乳を利用した
当日の給食